



発行所 東京都文京区千石
4丁目2番15号 〒112-0011
株式会社 建帛社
発行人 紫和 男
電話 営業部 (03) 3944-2611
編集部 (03) 3944-2613
FAX (03) 3946-4377
http://www.kenpakusha.co.jp/
E-mail info@kenpakusha.co.jp
©建帛社, 2018

これからの世界を 創り出す子どもたちを育む

文部科学省初等中等教育局視学官

東 良 雅 人



グローバル化は私たちの社会に多様性をもたらし、AI(人工知能)をはじめとする様々な技術革新は、私たちの生活を質的にも変

化させつつあります。これからの予測困難な時代を生きる子どもたちには「社会の変化にいかに対処していくのか」というような受け身の対応ではなく、社会の変化を前向きに受け止め、主体的に向き合っていくことが大切だと思います。このようなこれからの社会を見据えた「学習指導要領」の見直しについては、

平成二十六年十一月の諮問以来、中央教育審議会において検討が進められ、平成二十八年十二月二十一日に『幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申)』(以下、答申)が取りまとめられました。答申では、二〇三〇年の社会と、さらにその先の豊かな未来において、一人ひとりの子どもたちが自分の価値を認識するとともに、相手の価値を尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会の変化を乗り越え、よりよい人生とよりよい社会を築いていくために、教育課程を通じて初等中等教育が果たすべき役割を示すなど、社会に開かれた教育課程の実現の重要性について述べています。

ここでは、学校が社会や世界と接点をもちつつ、多様な人々とつながりを保ちながら学ぶことのできる、開かれた環境となることが不可欠であること。そして、学校が社会や地域とのつながりを意識し、社会の中の学校であるためには、学校教育の中核となる教育課程もまた、社会とのつながりを大切にする必要があるとしています。

答申では、これまでの現状などを踏まえ、社会に開かれた教育課程において重要となる点について以下のよう述べています。

① 社会や世界の状況

幅広く視野に入れ、よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標をもち、教育課程を介してその目標を社会と共有していくこと。

② これからの社会を創り出していく子どもたちが、社会や世界に向き合いかかわり合い、自らの人生を切り拓いていくために求められる資質・能力とは何かを、教育課程において明確化し育んでいくこと。

③ 教育課程の実施にあたって、地域の人的・物的資源を活用する、または放課後や土曜日等を活用した社会教育との連携を図り、学校教育を学校内に閉じず、その目指すところを社会と共有・連携しながら実現させること。

今後、子どもたちの日々充実した生活を実現し、未来の創造を目指していくため、

去る五月の国会において、著作権法の改正法案が可決・成立した。平成三十一年一月一日施行となる。改正趣旨は「デジタル・ネットワーク技術の進展により、新たに生まれる様々な著作物の利用ニーズに的確に対応するため、著作権者の許諾を受ける必要がある範囲を見直し、アーカイブの活用に係る著作物の利用をより円滑に行えるようにする」ものである。

例えば、ネット上での書籍検索や論文盗用のチェックなどの際の著作物の一部分の表示が、利用許諾なしで行えるようになる。

障害者については、今まで視覚障害に限っていた障害範囲を拡大し、肢体不自由等により読者が困難な者を対象とする録音書籍の作成等まで利用許諾なしで行えるようになった。

教育現場においては、

めには、学校と社会のそれぞれがそれぞれで子どもたちとのかかわりだけではなく、「子どもの学びと育ち」を学校と社会が共有しながら連携を図り、すべての子どもたちが生活や社会と豊かにかかわることができ、資質・能力の育成を目指すことが大切だと思います。

私が担当官を務めている中学校美術科の今回の改訂においても、これまで述べてきた答申の趣旨に基づき、教科の目標の柱書に「生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力の育成を目指す」と示しました。これは、すべての子どもたちが、単に上手に絵を描いたりものをつくりたりすることだけにとどまらず、学習活動を通して、造形的な視点を豊かにもち、生活や社会の中での形や色彩などの造形の要素

に着目し、それらによるコミュニケーションを通して、自分とのかかわりの中で美術や美術文化をとりえ、生活や社会と豊かにかかわることを目指したものです。

子どもたちは、私たちの社会や人生、生活を人間ならではの感性をはたかせてより豊かなものにした

り、現在では思いもつかなかった新しい未来の姿を構想し実現したりすることができ無限の力をもつています。そして、社会との主体的なかかわり合いの過程を通して、子どもたち一人ひとりが自らの可能性を発揮し、単にこれからの社会に対応するだけでなくとどまるのではなく、よりよい社会と幸福な人生の創り手となる力を身につけられるようにすることが求められているといえるでしょう。

る。教育利用に限れば、著作権者の許諾なしで、著作物のデータの公衆送信がある程度自由になるといいうことである。

ただし、この権利制限の拡大は、著作権者側に少なからず不利益が生ずることは明白であり、教育機関側では利用にあたっては「補償金」の名目での利用料金の支払が必要となる。その徴収窓口団体は法律で定められ、全国一律に集中管理されることとなるが、詳細は未定である。そのため、この教育利用の条文に限っては、「公布の日から三年を超えない範囲内において政令で定める日」が施行日となっている。

今後、教育機関による公衆送信を使った教材等マイクログリッド利用は拡大すると思われる、法律の適用範囲の整理・法運用の具体的ガイドラインの作成・教育利用に関する補償金制度の構築が早急に求められる。

「著作権法」一部改正される

「子どもの「食べる楽しみ」を支援する」

「食育と保育をつなぐ」

「増補 食品とオゾンの科学」

「食を支えるキッチングッズ」

「やさしい家政学原論」

「エビデンスに基づく競技別対象別スポーツ栄養」

「栄養士実力認定試験過去問題集」

「フードスペシャリスト資格認定試験過去問題集」

・2017年12月実施の最新問題を収載した過去問題集。過去5年間に実施された試験問題を分野ごとに掲載。

新刊専門書

(表示は本体価格(税別))

消化管からみた健康・栄養

日本栄養・食糧学会 監修
山田久則・宮本賢一 責任編集
A5 272頁
4000円

・消化管を通してヒトの健康・栄養を、味覚・食欲・消化・吸収、腸内細菌と腸管免疫、全身の代謝、臨床の各視点から概観する。

在宅、施設、病院で応用できる

栄養ケアプロセス

石長孝二郎 編著
B5 180頁
2500円

―理論・活用・症例―

「栄養ケアプロセス」の基本理論から実際の活用まで、そして基本症例を掲げ記載例等を豊富に紹介。

食育と保育をつなぐ

濱清美 著
A5 216頁
2400円

―子どもをまん中においた現場での実践―

・園の保育者と給食調理員・栄養士等をつなぎ、さらにそれを家庭につなぐ実践を紹介する。

・筆者の第64回読売教育賞受賞論文をもとにした一冊。

子どもの「食べる楽しみ」を支援する

日本健康・栄養学会 監修
栄養ケア・マネジメントのために
B5 176頁
2500円

・食育、臨床栄養、口腔機能、リハビリ等の各視点から「食べる楽しみ」を支援する栄養ケアを論じる。病院・施設等での実践11事例を掲載。

増補 食品とオゾンの科学

内藤茂三 著
A5 472頁
7000円

―微生物的原因とその制御―

・食品工業におけるオゾン利用について、さまざまな角度から実証的にその効果を述べる。和洋菓、飲料水へのオゾン利用、製パン工場でのオゾン殺菌について記述を追加した増補版。

食を支えるキッチングッズ

日本調理科学会 監修
肥後温子 著
A5 144頁
1600円

―調理用具、電気・ガス機器―

・包丁・鍋などの調理用具や、冷蔵庫・こころなどの電気・ガス機器まで。戦後の「台所」を大きく変えたこれらキッチングッズに着目。豊富な図版とともに機器の仕組みと変遷、さらには有効な利用法を紹介する。

やさしい家政学原論

二社日本家政学会 編
家政学原論部会
B5 216頁
2500円

・1990年代以降の日本内外における家政学の動向をふまえ、学問としての家政学からプロフェッションとしての家政学へ。家政学原論部会の設立50周年を期して刊行。家政学原論の新しい教科書。

近刊専門書

エビデンスに基づく競技別対象別スポーツ栄養

高田和子 編著
B5 240頁
3500円

・2018年版

栄養士実力認定試験過去問題集

全国栄養士養成施設協会 編
A4判/96頁(別冊解答・解説5年分付) 本体1100円

フードスペシャリスト資格認定試験過去問題集

日本フードスペシャリスト協会 編
A4判/100頁(別冊解答・解説12頁付) 本体1100円



残暑お見舞い 申し上げます

滋賀県・彦根城

日本の家政学の七十年と 家政学原論

(一社) 日本家政学会家政学原論部会会長

八幡(谷口) 彩子

二〇一八年、日本家政学会は設立七十周年、家政学原論部会は五十周年を迎えた。本稿では、戦後における日本の家政学と家政学原論のかかわりについて述べてみたいと思う。

一九四七年の「大学基準」ならびに「家政学部設置基準」の制定において、家政学は大学教育の一部門として制度化された。この

わが国初の「家政学部設置基準」において、「家政学の全貌を把握せしむる事を目的」とする「一般家政学」科目の一つとして「家政学原論」は位置づけられ、誕生した。戦後における家政学部の制度化と家政学原論の誕生はほぼ同時であり、家政学の哲学・バツ

クボーンとしての役割が家政学原論には期待されたと云えるだろう。しかし、内容に先んじて名称から誕生した家政学原論をどのようなものにするかの決定には多大な困難があった。この

ような中で、昭和二十年代に刊行された中原賢次氏、松平友子氏の『家政学原論』は「家政学原論」のモデルとなった。

一九四九年に設立された日本家政学会が、シンポジウムのテーマとして「家政学原論」を取り上げたのは一九六三年のことである。このときの議論は、『家庭教育』誌上に場を移し、家政学の名称をめぐる論争を引き起こした(1963年「家政学・生活科学論争」)。家

政学の本質、定義、体系等に関する討論会を経て、日本家政学会の分科会として家政学原論研究会(現家政学原論部会)が発足したのは一九六八年のことである。一九七〇年、国際家政学会から家政学の意義(定義)に関するアンケートが寄せられると、家政学原論研究会はInformation Sheet(案)の原案作成にかかり、家政学の学問論の構築に一定の役割を果たしたと考える。

日本家政学会の家政学将来構想特別委員会報告書『家政学将来構想1981』は学会の総意による家政学の定義を示し、学問論の確立に貢献した。一方、同報告書は、家族や家庭生活、家政を家政学の認識対象として収れんさせてきた家政学原論に対し、人間生活という幅広く一般化した対象認識や「総合科学」という家政学の性格を示すとともに、生活に根ざす学問の価値の多様性を正しく認

識させる教育を「家政学原論」に求めた。

一九九四年、アメリカ家政学会の名称変更を契機に、家政学原論部会は、家政学の学問としてのあり方よりも専門としてのあり方(professional development)を重視してきた。二〇一八年、日本家政学会は学会初の認定専門資格「家庭生活アドバイザー」すなわち「家政学の知識・技能を活用して、人々が生活環境を整え、自ら生活課題を乗り

越える力を高めるのを支援し、個人・家族・コミュニティのウェルビーイングの向上のために活動する専門家」の制度化に踏み切った。日本家政学会は「専門(職)」として社会貢献を目指す方向に舵を切ったと言えるだろう。学会認定資格「家庭生活アドバイザー」がその役割と使命を十分発揮できるように、家政学原論教育の充実に取り組んでいきたいと思っている。

(熊本大学教授)

「新しい社会的養育ビジョン」と子育て環境

子どもは、どこで育てられるのが幸せなのであろうか。家庭が一番であろうか。これは難しい問いだ。家庭は親密な関係を構築しやすいため養育環境として適しているが、同時に閉鎖的な空間にもなり得る。今

子どもは、どこで育てられるのが幸せなのであろうか。家庭が一番であろうか。これは難しい問いだ。家庭は親密な関係を構築しやすいため養育環境として適しているが、同時に閉鎖的な空間にもなり得る。今

子どもは、どこで育てられるのが幸せなのであろうか。家庭が一番であろうか。これは難しい問いだ。家庭は親密な関係を構築しやすいため養育環境として適しているが、同時に閉鎖的な空間にもなり得る。今

子どもは、どこで育てられるのが幸せなのであろうか。家庭が一番であろうか。これは難しい問いだ。家庭は親密な関係を構築しやすいため養育環境として適しているが、同時に閉鎖的な空間にもなり得る。今

子どもは、どこで育てられるのが幸せなのであろうか。家庭が一番であろうか。これは難しい問いだ。家庭は親密な関係を構築しやすいため養育環境として適しているが、同時に閉鎖的な空間にもなり得る。今

子どもは、どこで育てられるのが幸せなのであろうか。家庭が一番であろうか。これは難しい問いだ。家庭は親密な関係を構築しやすいため養育環境として適しているが、同時に閉鎖的な空間にもなり得る。今

子どもは、どこで育てられるのが幸せなのであろうか。家庭が一番であろうか。これは難しい問いだ。家庭は親密な関係を構築しやすいため養育環境として適しているが、同時に閉鎖的な空間にもなり得る。今

子どもは、どこで育てられるのが幸せなのであろうか。家庭が一番であろうか。これは難しい問いだ。家庭は親密な関係を構築しやすいため養育環境として適しているが、同時に閉鎖的な空間にもなり得る。今

子どもは、どこで育てられるのが幸せなのであろうか。家庭が一番であろうか。これは難しい問いだ。家庭は親密な関係を構築しやすいため養育環境として適しているが、同時に閉鎖的な空間にもなり得る。今

栄養ケアプロセスのPES報告が面白くなってきた

片桐 義範

日本では、公益社団法人日本栄養士会が栄養ケアプロセスを導入し、二〇一二年に「国際標準化のための栄養ケアプロセス用語マニュアル」としてまとめられました。栄養ケアプロセスは現在、日本栄養士会や各都道府県栄養士会の管理栄養士・栄養士の生涯教育として基本研修の中核に位置づけられ国内での普及を目指しています。

栄養管理の手法としては、栄養ケアマネジメントが多くの施設で導入され、日本国内に広く普及しています。「栄養ケアプロセス」と「栄養ケアマネジメント」の過程は基本的に同じですが、栄養ケアプロセスは、「栄養アセスメント」「栄養状態の判定(栄養診断・PES報告)」「栄養介入」方法です。さらに、栄養介入計画

栄養ケアプロセスの面白い点は、新たに導入されたPES報告です。PES報告は、簡潔かつ明瞭で、対象者の栄養状態に問題が生じている根拠(Sign Symptoms)と原因(Etiology)を明確に示し、栄養状態の問題(Problem)を総合的に判定(栄養診断)する記載方法です。さらに、栄養介入計画

学術機関向け電子書籍サービス

図書館・研究所などで利用する、オリジナルプラットフォームで閲覧できる学術図書に特化した電子書籍提供サービス。
◎紀伊國屋書店 Zetubon / 丸善雄松堂 eBook Library
教科教育百年史 / 造形教育事典 / 新食品分析ハンドブック / 食品保蔵・流通技術ハンドブック ほか
「管理栄養士講座シリーズ」全16点
「日本栄養・食糧学会監修シリーズ」全23点
「21世紀の調理学シリーズ」全13点
「TACS看護学シリーズ」全16点
「言語聴覚療法シリーズ」全17点
「介護福祉士養成テキスト」全17点
(詳しくは弊社ホームページをご覧ください。)

は、昨年の夏に厚生労働大臣の諮問機関が出した報告書である。子育て家庭への支援から親子分離後の支援まで、今後政府が子育てをどのように支えていくのかについて幅広く記されている。この中で子どもは家庭で育つべきという考えの下、これまで施設養護が支えていた日本の社会的養護体制を変革し、里親の割合を大幅に増やすこととした。

しかしこれには批判的意見も少なからずあった。その一つが社会的養護の中核を里親が担えるのかというものである。平成二十五年二月の厚生労働省の調査では、虐待待体験をもつ子どもは、被虐待体験をもつ子どもの割合が里親委託児童のうちの約三割であるのに対して、児童養護施設入所児童では約六割となっているが、里親委託児童の割合が高くなれば里親家庭においても多くの被虐待児を受け入れるを得ないだろう。施設では保育士や心理療担当職員、個別対応職員等の専門職の配置により、チームでの専門的な養育が可能だが、被虐待児のように対応が難しい養育において役割を分担し取り組んでいるが、里親養護は家庭であるがゆえに里親とその家族以外が直接養育に携わるのは困難であり、里親の負担は大きくならざるを得ない。

また、同調査では、児童養護施設で暮らしている子どもたちのうち五百九十三名は里親家庭からの措置変更で

入所した子どもたちとなっている(里親に委託されている子どもの総数は四千五百三十四名)。理由は様々であるが、何らかの理由により里親家庭での養育が困難となったと考えられる。「ビジョン」では、里親制度に関する包括的業務を行うフォスティング機関の整備等により里親養護を支える体制をつくるとしているが、支援体制が整っていない現状で委託児童を増やしていくのは里親に大きな負担をかけることとなる。

子どもの養育の場として家庭環境が適切であることは、子どもの権利条約の観点からみれば最善の利益にかなう。したがって、里親養護は国として推進すべき方向であることに間違いない。ただ、里親養護は家庭における養育であり、その点に対する配慮が必要である。家庭での養育は、親密度は高まるが、閉鎖的にもなり得る。児童虐待はその親密性と閉鎖性から生じる。都市化の進んだ現代社会において、家族だけで子育てを行うことは困難だ。近隣の人々や友人、保育者など、家族以外の人々との交流によって子どもたちは育まれる。つまり、里親を一つの家庭としてとらえる視点が必要なのである。里親養護においても公的機関による支援だけでなく、地域の中で支えられる環境づくりが急務であろう。

(日本女子大学准教授)

子どもは、どこで育てられるのが幸せなのであろうか。家庭が一番であろうか。これは難しい問いだ。家庭は親密な関係を構築しやすいため養育環境として適しているが、同時に閉鎖的な空間にもなり得る。今

子どもは、どこで育てられるのが幸せなのであろうか。家庭が一番であろうか。これは難しい問いだ。家庭は親密な関係を構築しやすいため養育環境として適しているが、同時に閉鎖的な空間にもなり得る。今

子どもは、どこで育てられるのが幸せなのであろうか。家庭が一番であろうか。これは難しい問いだ。家庭は親密な関係を構築しやすいため養育環境として適しているが、同時に閉鎖的な空間にもなり得る。今

新刊教科書

(表示は本体価格(税別))

Nブックス 栄養士養成課程向けテキストを充実	
応用栄養学概論	渡邊早苗・松田早苗 編著 B5 176頁 2200円
臨床栄養学概論	渡邊早苗・本間和宏 編著 B5 184頁 2200円
給食の運営	逸見幾代・平林真弓 編著 B5 176頁 2200円
栄養管理・経営管理	

スタディ応用栄養学	
疫学・保健統計	東條仁美 編著 B5 232頁 2800円
食物学 I	車谷典男・松本泉美 編著 B5 256頁 3100円
食物学 II	日本フードスペシャリスト協会 編著 A5 248頁 2200円
食料と加工、貯蔵・流通技術	日本フードスペシャリスト協会 編著 A5 240頁 2200円

Nブックス	
新版 社会福祉概論(第2版)	金子光一 編著 B5 184頁 2300円
疾病の成り立ち・臨床医学(第3版)	田中明・加藤昌彦 編著 B5 216頁 2400円
新版 臨床栄養学(第4版)	田中明・加藤昌彦 編著 B5 240頁 2700円
三訂 臨床栄養管理(第4版)	渡邊早苗・寺本房子 編著 B5 264頁 2800円

カレント	
人体の構造機能と疾病の成り立ち(第2版)	志村三夫・石田均 編著 B5 296頁 3400円
食(物)と健康3・食品衛生学(第2版)	川井英雄・丸井正樹 編著 B5 216頁 2500円
臨床栄養学(第2版)	明渡陽子・長谷川輝美 編著 B5 360頁 3800円
公衆栄養学(第3版)	山崎大治 編著 B5 224頁 2600円

Nブックス実験シリーズ	
調理科学実験(第2版)	長尾慶子・香西みどり 編著 B5 144頁 1900円
管理栄養士講座	
三訂 公衆衛生学(第3版)	伊達達之・松村康弘 編著 B5 276頁 3600円
管理栄養士講座	
改訂 感染と生体防御	酒井徹・鈴木亮彦 編著 B5 248頁 3400円
三訂 臨地実習ガイドブック	前田佳子・高岸和子 編著 A4 128頁 2500円
三訂 臨床栄養管理ポケット辞典	松崎政三・福井富雄 編著 B5 368頁 2800円

改訂 新しい家族関係学	
新版 基礎から学ぶ学校保健第2版	長津美代子・小澤千穂子 編著 B5 184頁 2300円
新学習指導要領に対応した新刊教科書	
小学校国語科教育法	阿部藤子・益地恵一 編著 A5 216頁 2300円
小学校算数科教育法	鈴木将史 編著 B5 184頁 2300円
小学校理科教育法	森本信也・森藤義孝 編著 B5 232頁 2600円
小学校図画工作科教育法	山口喜雄(代表)・佐藤昌彦・奥村高明 編著 B5 208頁 2400円
小学校家庭科教育法	大竹美登利・鈴木真由子 編著 B5 192頁 2300円

「食」と「栄養」 どちらが大切？

南久則

筆者は管理栄養士養成施設に所属している。養成施設の名称には「栄養」「食」「健康」がつくものが多いが、それぞれに違いがあるのだろうか。

「食・栄養」の立場から健康や医療に寄与できる管理栄養士の養成とよくいわれるが、「食」と「栄養」は同格か、どちらかが上位に位置するのか、あるいは異なった概念を並べているのかと、モヤモヤとしている。このことを整理することは、管理栄養士教育の基礎に何を据えるべきかを考えるとき重要である。

「栄養」は栄養素が体内で消化・吸収、利用、代謝等により、人体機能に様々な影響を与えることと定義される。「栄養」は栄養素(物質)を利用し、人体機能(状態)を変化させることであり、栄養状態は「栄養素」

身体活動、体内ホルモン動態等を考慮した「全身の栄養状態」を考慮した介入・評価が同時に必要である。たんぱく質エネルギー栄養障害(protein energy malnutrition: PEM)は、たんぱく質とエネルギーの摂取量不足により生じるが、COPD(慢性閉塞性肺疾患)などでは体内でのエネルギー消費量の増大によりPEMが生じる。PEMの原因が明らかに「食」(食事摂取量、食品の質、食事摂取の方法、食品知識の欠如等)に起因する場合は、「食」の立場、視点からの対応が必要であるが、「食」

「食」と「栄養」の関係を考えてみたい。エネルギーの過剰摂取は、消費しきれないエネルギーを体内脂肪量の蓄積へと導き、その結果肥満が生じ様々な代謝疾患の原因となる。エネルギー摂取量の調整は、食事量や食行動等の「食」に関する介入で可能である。一方消費エネルギー量、運動・

「食」と「栄養」の関係を考える。エネルギーの過剰摂取は、消費しきれないエネルギーを体内脂肪量の蓄積へと導き、その結果肥満が生じ様々な代謝疾患の原因となる。エネルギー摂取量の調整は、食事量や食行動等の「食」に関する介入で可能である。一方消費エネルギー量、運動・

健康な障がい者への健康づくり支援: 研究から確かな社会還元へ

稲山 貴代

障がい者支援にかかわる研究を始めて十年が過ぎた。「障がい者の栄養管理に関する目標や指針が必要だ」という訴えを聞かされたこ

以外の場合には、多面からアプローチし「栄養」に介入する必要がある。胎児期の低栄養の暴露が成人期の生活習慣病罹患率を増大させることが証されている。これは「食」に起因する「栄養状態」の変化が、世代を超えて健康に影響すること示している。これらのことから、「食」

「食」の重要な因子であり、介入手段である。しかしながら、「食」のみでなく「運動」「身体状態」「遺伝」「食に頼らない栄養法」「環境」等が連動して「栄養」に介入し身体機能や健康状態に影響してい

とがきっかけである。重度障がい者の症例報告や福祉に関する研究報告はあっても、在宅で生活している健康な障がい者の健康づくりに関する報告は極めて少ない。当の管理栄養士は、「国リハであれば、脊髄損傷者の肥満が一番の問題」という。まずは、国リハとの共同研究で実態把握から始め

る。こう書くと「栄養」が「食」の上位に位置する感じがする。しかし「食」は「喜び・幸福感を伴う」大切な役割を担っている。結局「栄養」と「食」は同格ではないが、決してどちらかが上位に位置するものではないというのが筆者の結論である。管理栄養士・栄養士の使命が人を幸せにすることなら、「栄養」の意味・効果をよく理解し、「食」を主体として、対象者に寄り添った総合的な対応ができるよう教育することが必要である。(熊本県立大学教授)

保育をビデオに撮る・撮られる

岸井 慶子

ビデオの視点に同化してしまうように感じるのです。撮られた映像は本当の保育なののでしょうか。「違う」という声はないのでしょうか。そんなことを感じるの、撮る手である私自身と撮られ手である保育者との関係が変わり、保育者が声をあげにくくなっているか

とて、保育者の成長にとって重要なビデオ活用を、さらに試行錯誤しながら開発・洗練していく必要があると考えます。(東京家政大学教授)

た。ところが結果は「肥満の人は多くはない」というもの。えっ? 現場では、個人の心情を揺さぶられるインパクトの強い事例に引きずられてしまうことが多い。確かに、参照できる研究報告は必要だ。そこで、国リハや(公財)

② どのレベルでの支援が必要なのかを整理し明確にする。必要なのは就業支援、生活支援、食生活支援か。課題は食物摂取状況から行動レベルかなど。枠組みによる整理は、目標設定と評価につながる。

③ 自立なのか自律なのか。何を、いつ、どこで、どれだけ、どのように食べたらいいかを自己決定できれば、その障がい者が栄養教育の学習者である。自律が困難であれば、周囲の環境要因に重点を置く。最初は障害特性に目が向きがちだが、ひとつの食卓を囲んで食事ができるのであれば、「考え方」はいわゆる健康者の場合と変わらない。

全春連より二〇一七年、「脊髄損傷患者のための社会参加ガイドブック」(Jogaker)「食生活」を出した。ガイドブックは全国の会員・関連諸団体に送付され、全春連HPからもダウンロードできる。実生活で活用できる情報として、当事者の方たちに研究成果を還元できたと、ひとまず安堵している。次の課題は、支援スタッフ・指導者やその教育者への情報発信である。三年前より、知的障害のある児童・生徒の健康づくりに関する研究もスタートさせた。二〇一八年四月開学の公立大学法人長野県立大学からの情報発信にも期待していただきたい。(長野県立大学教授)

管理栄養士国家試験eラーニング

●国家試験の過去問題、解答・解説を収録したeラーニングシステム
●過去問対策から成績管理まで、国家試験対策を完全サポート
●スマートフォン、タブレットなどモバイル環境にも対応!!
●個人用プラン 5000円(税) (3年間ライセンス契約)
●学校用プラン 11D30000円(税) (1年間ライセンス契約)
●模擬試験・分野別・ランダムなどさまざまな形式で学習。
●科目ごと、試験ごとの成績管理機能。
●学校用プラン(教員用サイト)の主な機能
○学生の利用状況、成績を一括管理。成績の比較・分析も可能。
○小テスト作成機能。作成した小テストは学生用サイトに更新。
○弊社HPより無料デモ版をダウンロードご利用いただけます。

新幼稚園教育要領／保育所保育指針／幼保連携型認定こども園教育・保育要領に対応した新刊・改訂図書									
コンパス コンパクトながら深い学びへ／保育テキストシリーズ									
保育内容総論(第2版)	咲間まり子	編著	B5	144頁	2000円	2000円	2000円	2000円	2000円
保育内容 健康	前橋 明	編著	B5	216頁	1900円	1900円	1900円	1900円	1900円
保育内容 人間関係	岸井慶子・酒井真由子	編著	B5	160頁	2000円	2000円	2000円	2000円	2000円
保育内容 環境	高橋貴志・目良秋子	編著	B5	144頁	1900円	1900円	1900円	1900円	1900円
保育内容 言葉(第2版)	内藤知美・新井美保子	編著	B5	160頁	2000円	2000円	2000円	2000円	2000円
乳児保育	咲間まり子	編著	B5	144頁	1900円	1900円	1900円	1900円	1900円
障害児の保育・教育	武藤久枝・小川英彦	編著	B5	200頁	2300円	2300円	2300円	2300円	2300円
シードブック									
三訂 保育原理	大沼良子・榎沢良彦	編著	A5	184頁	1900円	1900円	1900円	1900円	1900円
改訂 保育者論(第3版)	榎田三子・大沼良子	編著	A5	208頁	2000円	2000円	2000円	2000円	2000円
改訂 保育内容総論	入江礼子・榎沢良彦	編著	A5	192頁	1900円	1900円	1900円	1900円	1900円
保育内容 健康(第3版)	榎沢良彦・入江礼子	編著	A5	200頁	1900円	1900円	1900円	1900円	1900円
保育内容 人間関係(第3版)	榎沢良彦・入江礼子	編著	A5	192頁	1900円	1900円	1900円	1900円	1900円
保育内容 環境(第3版)	榎沢良彦・入江礼子	編著	A5	200頁	1900円	1900円	1900円	1900円	1900円
保育内容 言葉(第3版)	榎沢良彦・入江礼子	編著	A5	184頁	1900円	1900円	1900円	1900円	1900円
保育内容 表現(第3版)	入江礼子・榎沢良彦	編著	A5	184頁	1900円	1900円	1900円	1900円	1900円
社会的養護Ⅰ									
子ども家庭福祉論	赤木正典・流土治郎	編著	A5	208頁	2100円	2100円	2100円	2100円	2100円
新現代保育原理(第3版)	柏原栄子・渡辺のゆり	編著	A5	248頁	2400円	2400円	2400円	2400円	2400円
なぜからはじめる保育原理第2版	池田隆英・上田敏文	編著	B5	152頁	2000円	2000円	2000円	2000円	2000円
改訂 子どもの養護	池田隆英・中原朋生	編著	B5	160頁	2000円	2000円	2000円	2000円	2000円
子どもの食と栄養演習(第4版)	松本峰雄・和田上貴昭	編著	A5	208頁	2000円	2000円	2000円	2000円	2000円
造形表現・図画工作(第2版)	磯部錦司	編著	B5	232頁	2700円	2700円	2700円	2700円	2700円
保育教職実践演習(第2版)	小原聡子・神蔵幸子	編著	B5	192頁	2400円	2400円	2400円	2400円	2400円
保育者をめぐる保育実践力Ⅰ	大崎恭子・関本富郎	編著	B6	392頁	3000円	3000円	3000円	3000円	3000円
改訂 教育と福祉の事典	倉戸直実・松本峰雄	編	B6	392頁	3000円	3000円	3000円	3000円	3000円
福祉ライブラリ									
社会 保 障	川村民由	編著	A5	264頁	2800円	2800円	2800円	2800円	2800円
相 談 援 助	川村民由	編著	A5	256頁	2700円	2700円	2700円	2700円	2700円
福 祉 法 学	志田民吉	編著	A5	280頁	2800円	2800円	2800円	2800円	2800円
現代の社会福祉(第2版)	都築光一	編著	A5	248頁	2500円	2500円	2500円	2500円	2500円
地域福祉の理論と実践(第2版)	都築光一	編著	A5	240頁	2400円	2400円	2400円	2400円	2400円
新 医療秘書実務シリーズ 医療秘書教育全国協議会 編									
新刊を含みシリーズを刷新!! 各巻B5・120～224頁・1900～2500円									
1 改訂 医療秘書	2 病院のマネジメント	3 改訂 医療情報管理	4 改訂 医療関連法規	5 改訂 医療用語	6 DPCの基礎				

新学習指導要領が 求める理科授業の姿

森 藤 義 孝

教育現場では、新たな学習指導要領の趣旨を踏まえつつ、それに基づく授業構想や授業実践が試行されるようになってきている。前回の学習指導要領の改訂では、すべての教科において、小学校から高等学校に至るまでの学校種間の連携強化が最重要課題とされた。その結果、理科では、小学校から高等学校に至るまでの学習指導内容を、エネルギー、粒子、生命、地球の四領域に大別して整理し、学習指導内容間の関係性が明確に示されるようになった。

しかし、このたびの改訂においては、教科の違いを超えて、統一的な枠組みのもとですべての教科指導を語ることが重要視されたといえる。

具体的にいえば、すべての教科において、各教科固有の「見方」と「考え方」を働かせて学習活動を展開し、その結果として三種類の資質・能力を育成する、といった表現形式を採用し、教科指導について語ることが要請されたといえるのである。

これまで、私たちは、子どもが保持する概念を指示する言葉として、見方、考え方、とらえ方、認識(認知)、理解等の多様な表現を用いてきた。これらの言葉のどれを選択して用いる

かは、好みの問題とみなされてきたのかもしれない。しかし、このたびの改訂において、見方と考え方は、極めて特別な意味が与えられることとなった。

見方は、「様々な事象を捉える各教科ならではの視点」を意味する言葉として位置づけられ、エネルギー、粒子、生命、地球の各領域で働かせる見方の代表例として、それぞれ「量的・関係的な視点」「質的・実体的な視点」「多様な・共通性の視点」「時間的・空間的な視点」が示された。一方、考え方は、「思考の枠組み」を意味する言葉として位置づけられ、その代表例として「比較しながら考える」「関係付けながら考える」「条件を制御しながら考える」「多面的に考える」が示された。

障害のある子どもの 生涯発達における支援

武 藤 久 枝

臨床心理士として障害のある子ども達とかわつてきて感じることは、成長と共に子どもが変わっていくことである。乳幼児期に支援した子ども達に偶然、街角で出会うことがある。見違えるほど成長して、重度の障害がある子どもが就労している場合がある。その反対に、小学校入学当初、普通クラスで就学した子どもが特別支援学校へ通学し

ている場合もある。幼児期にその後の成長の見通しを立てることがいかに難しいかを考えさせられてしまっている。青年期を経て成人して就労に至るまでには、当然、保護者や家庭の力、その障害がある子どもが就労している場合がある。その響について少し考えてみたい。

子どもが変わっていくことが特別支援学校へ通学し、力と育成するのかわを明確にしつつ、授業実践を重ねていくことが求められるのである。もちろんこれは、従来とは異質な理科授業の実現を要請するものではない。これまでの目指してきた理科授業の姿を劇的に変化させるというよりも、すべ

ての教科の取り組みを統一的に表現できるようにするために導入された「見方や考え方を働かせて資質能力を育成する」といった表現形式を用い、理想としてきている理科授業の姿を語り直すことが、今、求められるのである。

(福岡教育大学教授)

て、第一に、従来から指摘されていることであるが乳幼児期における対人関係の安定した基盤の形成があげられる。養育者との間の安定した愛着形成が子どもの対人関係の基盤となる。親子関係の重要さは障害のない場合にももちろん当てはまるが、障害のある子どもの場合にはより一層、その影響は大きいようである。社会生活を送るためのスキルとしてあげられる生活習慣の確立、交通機関の利用、買物等はできたほうが望ましいことはいうまでもないが、仮にできなくても困ったときに周囲の人達に支援を求める力をもつことが大切である。それは、周囲にアドバイスを求める力であり、聞いたアドバイスを受け入れる力である。すなわち支援関係を形成できる対人関係であり、その基盤を乳幼児期に身につけることが大切である。

第二は、周囲が子ども一人ひとりに合わせて工夫して働きかける力のような気がする。その子どもに合わせた周囲の環境を工夫する、もしくは丁寧に生活スキルを教えている保護者や保育者に出会うことがある。例えば、服の前後・左右を自分で判断できるようにすべての服の特定の場所にアップリケ等の目印をつける等の工夫である。障害のない子どもなら自然に覚えていくことでも、周囲が一つひとつ丁寧に教えている。これらの積み重ねが何年もたつと大きな差になってきて就労する力につながるのではなからうか。

第三に、年齢の要素も考慮する必要がある。筆者は長年、乳児から中学生までの発達相談や教育相談を行ってきた。相談にあたっては、子どものもっている力としての学力や発達段階を踏まえながら家族の気持ちを受け止めることを心がけてきた。実際にはこれに年齢の要素が加わってくる。つまり発達の節目や変わり目の時期に起こりやすい変化がある。また、同じ主訴や行動にみえても三歳と六歳とでは問題も必要な支援も異なってくる。専門家としては、子どもは変わること、変わり目の時期があること、そして、この時期にはどのような変化が起こりやすいかなどをあらかじめ知っておくことで、支援における現実的な判断や見通しが少しは可能になるように思われる。

では、これらを保育・教育職等を目指す学生の養成教育や現職教育にどのようなか。日々考え続ける筆者の課題である。

(中部大学教授)

母乳は、健康な乳児にとって理想的な栄養食品であり、正常な発育に必要なすべての栄養素がバランスよく含まれ、生後六か月ぐら

いまでは、母乳だけで育ちます。たんぱく質の濃度は、抵抗力の弱い乳児へ免疫物質を与えるために出産直後の母乳で高く、徐々に減少します。逆に脂質の濃度は、成長とともに増える乳児の活動量に伴いエネルギー消費量が増加するため、それを効率よく賄うため徐々に上昇します。

さらに神秘的な恵として、一回二十分ぐらいの哺乳(授乳)中でも、飲み初めと飲み終わりでは味が異なります。初めは淡泊で飲みやすく、やがて脂肪の量が多くなつて味が変わり、乳児に満腹感を与え、食欲を抑制する働きがあります。その間、たんぱく質濃度は、茶に

母乳中には、ポリフェノールのカタキンが存在することが明らかにされています。カタキンは、抗酸化能をもち、血中コレステロール濃度上昇抑制、脂質吸収抑制、物中や腸内細菌により生成され、母乳を通して乳児が利用します。母乳中のカタキン濃度は、茶に

母乳中には、ポリフェノールのカタキンが存在することが明らかにされています。カタキンは、抗酸化能をもち、血中コレステロール濃度上昇抑制、脂質吸収抑制、物中や腸内細菌により生成され、母乳を通して乳児が利用します。母乳中のカタキン濃度は、茶に

母乳中には、ポリフェノールのカタキンが存在することが明らかにされています。カタキンは、抗酸化能をもち、血中コレステロール濃度上昇抑制、脂質吸収抑制、物中や腸内細菌により生成され、母乳を通して乳児が利用します。母乳中のカタキン濃度は、茶に

母乳中には、ポリフェノールのカタキンが存在することが明らかにされています。カタキンは、抗酸化能をもち、血中コレステロール濃度上昇抑制、脂質吸収抑制、物中や腸内細菌により生成され、母乳を通して乳児が利用します。母乳中のカタキン濃度は、茶に

母乳中には、ポリフェノールのカタキンが存在することが明らかにされています。カタキンは、抗酸化能をもち、血中コレステロール濃度上昇抑制、脂質吸収抑制、物中や腸内細菌により生成され、母乳を通して乳児が利用します。母乳中のカタキン濃度は、茶に

母乳中には、ポリフェノールのカタキンが存在することが明らかにされています。カタキンは、抗酸化能をもち、血中コレステロール濃度上昇抑制、脂質吸収抑制、物中や腸内細菌により生成され、母乳を通して乳児が利用します。母乳中のカタキン濃度は、茶に

母乳の神秘的な恵 —ポリフェノール類のカテキン—

本 間 和 宏

母乳中には、ポリフェノールのカタキンが存在することが明らかにされています。カタキンは、抗酸化能をもち、血中コレステロール濃度上昇抑制、脂質吸収抑制、物中や腸内細菌により生成され、母乳を通して乳児が利用します。母乳中のカタキン濃度は、茶に

母乳中には、ポリフェノールのカタキンが存在することが明らかにされています。カタキンは、抗酸化能をもち、血中コレステロール濃度上昇抑制、脂質吸収抑制、物中や腸内細菌により生成され、母乳を通して乳児が利用します。母乳中のカタキン濃度は、茶に

母乳中には、ポリフェノールのカタキンが存在することが明らかにされています。カタキンは、抗酸化能をもち、血中コレステロール濃度上昇抑制、脂質吸収抑制、物中や腸内細菌により生成され、母乳を通して乳児が利用します。母乳中のカタキン濃度は、茶に

母乳中には、ポリフェノールのカタキンが存在することが明らかにされています。カタキンは、抗酸化能をもち、血中コレステロール濃度上昇抑制、脂質吸収抑制、物中や腸内細菌により生成され、母乳を通して乳児が利用します。母乳中のカタキン濃度は、茶に

母乳中には、ポリフェノールのカタキンが存在することが明らかにされています。カタキンは、抗酸化能をもち、血中コレステロール濃度上昇抑制、脂質吸収抑制、物中や腸内細菌により生成され、母乳を通して乳児が利用します。母乳中のカタキン濃度は、茶に

母乳中には、ポリフェノールのカタキンが存在することが明らかにされています。カタキンは、抗酸化能をもち、血中コレステロール濃度上昇抑制、脂質吸収抑制、物中や腸内細菌により生成され、母乳を通して乳児が利用します。母乳中のカタキン濃度は、茶に

母乳中には、ポリフェノールのカタキンが存在することが明らかにされています。カタキンは、抗酸化能をもち、血中コレステロール濃度上昇抑制、脂質吸収抑制、物中や腸内細菌により生成され、母乳を通して乳児が利用します。母乳中のカタキン濃度は、茶に

母乳中には、ポリフェノールのカタキンが存在することが明らかにされています。カタキンは、抗酸化能をもち、血中コレステロール濃度上昇抑制、脂質吸収抑制、物中や腸内細菌により生成され、母乳を通して乳児が利用します。母乳中のカタキン濃度は、茶に

母乳中には、ポリフェノールのカタキンが存在することが明らかにされています。カタキンは、抗酸化能をもち、血中コレステロール濃度上昇抑制、脂質吸収抑制、物中や腸内細菌により生成され、母乳を通して乳児が利用します。母乳中のカタキン濃度は、茶に

近 刊 案 内

平成30年9月12日発行予定
(等は税別・本体価格が
ごさいいます)

管理栄養士講座 臨床医学入門 スタディ 基礎・応用・臨床 保育内容総論	福井次夫・小林修平 編著 渡邊敬明 編著 清水陽子・森 眞理 編著	B5 280頁 3800円
1 介護福祉の基礎	本名 靖・木村久枝 編著	B5 136頁 1900円
2 社会の理解	高野龍昭 編著	B5 232頁 2900円
3 生活支援の基礎知識	遠藤英俊 編著	B5 280頁 3800円
4 生活支援の実際	荏原順子・本名 靖 編著	B5 232頁 2900円
5 介護過程	荏原順子 編著	B5 232頁 2900円
6 障害の理解発達と老化の理解	川手信行・本名 靖 編著	B5 232頁 2900円
7 認知症の理解	遠藤英俊・荏原順子 編著	B5 232頁 2900円

特別支援教育免許シリーズ 各巻B5

特別支援学校教諭免許取得のための 初任者のテキストシリーズ2018年より順次刊行予定 シリーズ監修	花熊 暁・荏田知則・笠井新一郎 川住隆一・宇高二良	各巻B5
視覚障害教育領域 見えの困難への対応	布川清彦・荏田知則・氏間和仁 編著	各巻B5
聴覚障害教育領域 聞こえの困難への対応	宇高二良・長嶋比奈美・加藤哲則 編著	各巻B5
知的障害教育領域 認知機能・知的機能の困難への対応	笠井新一郎・荏田知則・坂井 聡 編著	各巻B5
肢体不自由教育領域 運動機能の困難への対応	櫻木暢子・笠井新一郎・花井丈夫 編著	各巻B5
病弱教育領域 健康面の困難への対応	中野広輔・櫻木暢子・滝川国芳 編著	各巻B5

改訂予定教科書

三訂 保 育 者 論	民秋 言 編著	A5 184頁 2000円
改訂 子どもの教育原理	北野幸子 編著	A5 176頁 1800円

Microsoft Excel アドインソフト

エクセル栄養君® Ver.8	制作・著作 吉村幸雄	本体価格24000円
日本食品標準成分表2015年版(七訂)	追補2016年・2017年	対応

簡単操作で活用できる多機能栄養計算ソフト	・エネルギー・産生栄養素・ビタミン・ミネラル・水分・食物繊維・食物成分表・エクセルファイルの付録。	3000円
エクセル栄養君® Ver.8 オプションソフト	・食物成分表・エクセルファイルの付録。	3000円

食物摂取頻度調査新 FFQs Ver.5	制作・著作 吉村幸雄	本体価格6000円
----------------------	------------	-----------

制作・著作 吉村幸雄 本体価格6000円